

経営学部

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

経営学部では、これまで社会人向け夜間大学院、英語学位プログラム (GBP) の設立、市場の多様なニーズに対応した3学科体制への移行など、先駆的な取り組みを行ってきた。また、時代に即したカリキュラムの検討が行われ、2019年度から新カリキュラムが導入されたことは高く評価できる。今後は執行部が中心になり履修者数などの運営上の課題に対する改善策を講じるとともに、研究面と教育面から新カリキュラムの教育効果についての把握・検証が望まれる。さらに、キャリア関連の科目を配置するだけでなく、インターンや各界からビジネスパーソンを招いた寄付講座の開設など、学生が多面的に社会とつながる機会が多く提供されていることも高く評価できる。引き続き学生の社会的及び職業的自立を図るためのキャリア教育を期待したい。FD活動として、研究面における紀要『経営志林』の定期的な発行、経営学会が主催する研究会の開催、教育面における授業アンケートに基づくFD懇談会における活発な議論は、優れた取り組みであるといえる。海外からの有能な人材の受け入れは、学生の国際性を滋養するために重要である。留学生別枠定員拡大にともなう英語学位プログラム (GBP) の適切な入試内容・入試体制についての活発な議論とアジアやアメリカの大学とのダブルディグリープログラムについての話し合いの具体的な進展を期待したい。

また、2020年度の重点目標に掲げられたZoom等によるオンライン化促進に関しては、新型コロナ終息後も継続して活用できる施策があると思われるため、大規模授業を補完するツールとして期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度は2019年度から導入された新カリキュラムをさらに円滑に運営するために、特に少人数の専門教育科目の「入門演習」(1年次対象)や、「入門外国語経営学」(1年次以降)の履修登録に関して各クラスの数に偏りが生じないように改善を行った。COVID-19で学部生のインターンシップの実施は残念ながら中止となったが、英語学位プログラム (GBP) では、外資系企業でのインターンシップ(オンライン)が授業の一環として実現できた。実務家による寄付講義も3コマ実施した。COVID-19によるオンライン授業のため大学法人部門に先駆け、Zoom有償版のアカウントを経営学部で取得し学部授業で利用した。また本学部の教員中心となり、オンラインによる授業に関してオンラインによる意見や情報交換を実施した。またFD活動として例年実施されているワークショップ、講演会等は、COVID-19のため実施できなかったが、質保証委員会をオンラインで開催して、新カリキュラムの運用や評価方法、オンラインでの授業方法などに関して意見交換や検討を実施した。GBPに関しては、定員拡大に向けて2021年度の自己推薦入試をI期とII期の二期制とし、入試日程や審査方法などについて実施に向けての準備を推進した。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経営学部では、2019年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営に向けて、2020年度には少人数の専門教育科目(「入門演習」、「入門外国語経営学」)のクラス編成を改善するなど、大規模学部における少人数教育科目の実効性を高めるための努力がなされている点は高く評価できる。

また、COVID-19により学部生のインターンシップは中止を余儀なくされたものの、英語学位プログラム (GBP) では外資系企業でのインターンシップをオンライン授業の一環として実施し、実務家による寄付講義も実施されるなど、企業社会との連携を意識した、学部専門領域と適切な取り組みがなされている点、さらに、Zoomの有償版アカウントを法人に先行して取得したほか、オンライン授業に関する教員間の意見・情報交換、あるいはオンラインでの委員会開催や意見交換など、意欲的な取り組みが行われており、高く評価できる。オンライン授業や会議の運営に関する知識やノウハウはCOVID-19が終息した後も、活用できるものと考えられるので、経営学部の今後の取り組みに期待したい。

GBPの定員拡大に関しても、2021年度からの二期生の導入に向けて準備が進められており、評価できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>2019年度から新カリキュラムを開始し、2020年度は新カリキュラム導入2年目となった。新カリキュラムの特徴として、1年次に、専門入門科目100番台、入門演習などにより、基本的な調査・研究・プレゼンテーション能力等の導入教育、経営・経済学の入門的な内容などを教育している。2年次の専門入門科目及び学科専門科目200番台には、入門的な経営学と専門的な経営学の橋渡しとなるような科目を配置し、3年次からは専門性を高められるよう学科専門科目300番台を配置している。さらに、2～4年次の専門演習（ゼミ）では、少人数の環境で講義科目で学んだことを応用したり深化させたりすることが可能となっている。</p> <p>また、グローバル化対応として、2019年度からは入門外国語経営学、ネイティブによるビジネス英語や国際コミュニケーション論などの科目をグローバル・ビジネス/GBP科目として選択必修化し、経営学部独自のスタディ・アブロード(SA)プログラムも実施するカリキュラムとなっている。さらに、キャリア教育として、インターンシップ、キャリアマネジメント論、検定会計などの科目や特殊講義として各界からの寄付講座を設けている。ただし、2020年度はCOVID-19のため、残念ながらスタディ・アブロード(SA)プログラムと学部生対象のインターンシップの授業は実施されなかった。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2020年度は、1年次対象の「入門演習」、1年次以降対象の「入門外国語経営学」で、定員超過のクラスについては選抜を実施した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学経営学部のカリキュラムツリーの公開ホームページ： https://www.hosei.ac.jp/keiei/shokai/curriculum-tree.html 法政大学経営学部のカリキュラムマップの公開ホームページ： https://www.hosei.ac.jp/keiei/shokai/curriculum-map.html 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>一般教育科目では、まず1年次に導入教育、外国語・教養教育を目的とした科目を学ぶ。</p> <p>2019年度から新カリキュラムを開始し、入門科目100番台では、1年次に3学科共通の経営・経済・会計・情報の基礎を学ぶ（設置科目の14単位以上の修得が必須）。入門科目200番台および学科専門科目200番台では、2年次に各学科の基本となる科目を学ぶ（入門科目200番台4単位以上の単位修得が必須）。これらの科目を修得した上で、3年次、4年次に各学科の専門科目300番台を学ぶ（自学科専門科目200番台と300番台を合わせて16単位以上の修得が必須）。また、グローバル化への対応として、グローバル・ビジネス/GBP科目を選択必修化した（2単位以上の単位習得が必須）。さらに、特殊講義や関連科目を設け、専門科目を補強している。</p> <p>演習（ゼミ）は、1年次に入門演習があり、2年次から専門演習を履修できる。いずれも必修ではないが、2020年度における3年次生の専門演習の履修率は6割以上である。</p> <p>なお、2016年9月にスタートしたGBPのカリキュラムでは、1年次に経営学および関連基本科目の入門、英語で学ぶための基本スキル科目等を配置し、2年次以降に発展・応用科目や、日本の経営の実践を学ぶためのワークショップやインターンシップ等を配置している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「2020年度 経営学部 履修の手引き」、「2020年度 経営学部 講義概要（シラバス）」 	
③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>1・2年次を中心として語学（英語、第二外国語）、人文・社会・自然科学分野の諸科目など一般教育科目が多数配置されており、卒業所要単位の3分の1を占めている（卒業所要単位132単位中、44単位以上）。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「2020年度 経営学部 履修の手引き」 「2020年度 市ヶ谷基礎科目・総合科目 講義概要（シラバス）」 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次科目としては、入門演習を開講し、1年次生に対して大学での学びの方法について指導している。また、経営学の体系を鳥瞰する専門基礎科目として経営学総論が4コマ開講されている。さらに、高校までの数学と大学の経営・経済学関係分野で用いる数学の橋渡しの内容を意図して、2016年度以降、「基礎数学」の授業を開始した（経営学部生は1年次から履修可）。</p> <p>2019年度からは、新カリキュラムへの移行に伴い、1年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ専門入門科目の授業を開始した。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2020年度 経営学部 講義概要（シラバス）」 ・「2020年度 市ヶ谷基礎科目・総合科目 講義概要（シラバス）」 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学部創設以来外国語経営学の講義を行っている。2020年度は、主に1年次生を対象とした「入門外国語経営学Ⅰ／Ⅱ」（初級・中級）を26コマ（2019年度から5コマ増コマ）、2年次生を対象としたネイティブ・スピーカーによる「ビジネス英語Ⅰ／Ⅱ」を4コマ開講している。</p> <p>例年実施しているSAプログラム[アメリカ・ネバダ大学リノ校（16週間）、オーストラリア・モナッシュ大学（11週間）]に関しては、COVID-19のため、ネバダ大学リノ校募集は中止、モナッシュ大学校は、募集したが、実施を中止した。SAプログラムに向けた語学関連授業として「Skills for SA」を春学期に1コマ（2単位×1クラス）開講している。</p> <p>さらに、2016年9月に創設した英語学位課程GBPの大半の科目をグローバルオープン科目とし、日本語学位課程の学生も受講できるようにしている。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>「入門外国語経営学」（1年次以降）の履修登録に関して各クラスの人数の偏りが生じないように改善を行った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GBP Guide 2019 Fall-2020 Spring」、 「GBP Syllabus 2019 Fall-2020 Spring」 ・「Student Handbook GBP/SCOPE/IGESS Fall 2020-Spring 2021」 	
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育科目としては、キャリアマネジメント、国際コミュニケーション論、検定会計、インターンシップがある。中でも1995年に開講したインターンシップは、多様な業界の企業と連携した最も古いキャリアプログラム科目である。しかし2020年度は、COVID-19のため実施できなかった。一方、英語学位プログラム（GBP）のインターンシップは、オンラインにより実施した。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学位プログラム（GBP）のインターンシップでは、1社に1名の学生を派遣することができた。 ・GBPのインターンシップの新たな派遣先として数社と話し合いを進めている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年は、1年次生対象のオリエンテーション時に入門科目、専門科目、情報科目に分けてガイダンスを実施し、同時にインターンシップやSAプログラム等の学部独自プログラム、経営学部生の多くが受講する会計専門職講座についても説明を実施しているが、COVID-19のため2020年度は実施できずメールでのシラバス紹介、各プログラムの案内となった。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2020年度 経営学部講義概要（シラバス）」	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。 教員がそれぞれの担当授業やゼミ、オフィスアワー等で、学生からの申し出に対応して行う指導が中心である。その他の方法としては学部事務窓口や執行部による指導がある。また、2013年度から、年2回、成績不振者またはその保証人に面談を実施し、学習指導を行っている。2020年度はCOVID-19の影響で面談を行わず、アンケート方式のヒアリングを秋学期当初（9月）に実施した。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・成績不振者に対して、アンケート方式のヒアリングを秋学期当初に実施した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。 個別の講義に関しては、シラバス等を通じて予習と復習の指導を行っている。そうした予習復習の学習時間を確保するため、科目群毎や年次毎に履修科目の登録上限が設定されており、過度の履修申請を防止している。さらに、2012年度には進級規程を改正し、年間の取得単位の上限を49単位とし、予習・復習の学習時間を確保できるようにしている	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S A B
【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。 ・インターンシップ：春学期にインターンシップ派遣先の企業から講師を招いて座学で業界の状況等を学んだ後、夏休みに実際に企業に出向いてインターンシップを実施し、終了後に報告会を開催して単位が認定される。しかし、2020年度は、COVID-19のためインターンシップ講義は休講となった。 ・インターンシップ以外にも企業等から講師を招いて単発的に講義をしてもらう授業がある。 ・毎年2～3科目寄付講座を開講し、実務家による講義を行っている。 ・通常の講義でもアクティブラーニングを取り入れているものがある。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・COVID-19に対応するためにオンライン授業の方法・問題点・注意点などに関してオンラインによる情報交換を実施した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2020年度 経営学部講義概要（シラバス）」 ・2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書（経営学部）	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 「講義」形態の授業のうち、入門科目100番台、同200番台など多くの学生が同一科目を履修する場合は2～6クラス設け、1クラスあたりの受講者数が200～300名以内となるよう努めている。一方、講義科目で受講者数が過少（10人以下）となることは希だが、そうした場合は開講曜日・時限、内容等の工夫を行い、改善に努めている。また、専門演習の履修者数は、ゼミによって3～42人とばらつきがあるが、その大半は平均である22.3人の前後に分布している（人数は2020年度春学期の演習1の履修登録者数）。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・「入門演習」（1年次対象）や、「入門外国語経営学」（1年次以降）の履修登録に関して各クラスの人数の偏りが生じないように定員超過のクラスは選抜を実施した。 ・英語学位プログラムGBPは、2021年度から募集人員が10名増加に伴い、必修科目のクラスの増コマ措置を準備した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2020年度 経営学部講義概要（シラバス）」	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
※取り組みの概要を記入。 ・2020 年度当初からオンライン授業に向けて、講義方法に関して情報交換を実施した。 ・大学法人部門に先駆け、Zoom 有償版のアカウントを経営学部で取得し学部授業で利用、そのための費用を経営学会（法政大学経営学部の学会費）から支出した。 ・ハイフレックス授業（リアルタイムで授業を実施し、同時に録画してオンデマンドの教材とする方法）のデモンストレーションも学部全教員対象に実施した。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。 ・各科目の成績評価は科目担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形式に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。 ・一方、学生はその成績（D または E の場合）に疑義があれば調査を申し立てる制度がある。そこで成績評価が変更される場合、教員にその理由の説明文書と信憑書類の提出を求め、教授会で審議の上承認する。 ・なお、英語に関しては TOEIC や TOEFL 等の試験結果に応じて単位認定をする制度がある。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 教授会において、学部別の GPCA 集計表が配付され、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を検証している。また、事後に採点を訂正する場合は、当該の試験答案などを教授会で回覧しチェックした上で承認している。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 学生の就職状況に関しては、学部長会議で定期的に報告される資料に基づき、教授会で報告しているほか、適宜、学科毎の就職状況など、より詳細な情報をキャリアセンターから取り寄せて教授会メンバーに提供している。GBP については、2020 年度に第 1 期の卒業生を迎えたが、GBP の学生の多くは海外からの留学生であるため、彼らの卒業後の就職・進学希望先について早い段階で認識することを目的として、2018 年度からは毎年アンケート調査を実施している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・現状で各教員が把握できるのは、自分の担当科目と全学及び経営学部全体の GP 分布である。また、執行部は必要に応じ、個別科目の成績分布を把握することができる。 ・進級については年度末に実施される進級判定教授会で情報を共有している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>SA 派遣やインターンシップについてはプログラム終了後に報告会が行われている。しかし、2020 年度は、COVID-19 のため SA (海外留学) プログラム、インターンシップは実施されなかった。専門演習では、卒業論文 (卒業レポート) を課す場合が多く、それによって担当教員は 4 年間の学習成果を測定・検証できる。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>③「学修成果の把握に関する方針 (アセスメント・ポリシー)」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>現状では、個別学生の学習成果は単位修得科目やその成績によって把握している。ただし、個別の教育プログラムではそれ以外の成果把握・評価も行われている。例えば、1 年次に全学生を対象に英語のアセスメント・テストを年 2 回実施しており、必修科目の英語授業のレベル分けなどに利用されている。さらに、2017 年度より、卒業生の寄付によって創設された給付型奨学金制度「赤坂優奨学金」において、優れた起業・ビジネスプランを提出した者に対し、書類審査と面接選考を用いて評価する仕組みを導入している。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・約 75% の専門演習で卒業論文 (ゼミ論文) を必須としており、全体の 6~7 割のゼミではその成果を冊子として印刷したり、電子データとしてゼミ生に配付したりしている。</p> <p>・また、ゼミによっては、その成果をインターゼミ大会で報告したり、学内外の懸賞論文に応募したり、さらにはビジネスプランをコンテストに応募したりしている。</p>	
<p>【2020 年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>教育成果の検証は、例年は各学期末に行われる「学生による授業改善アンケート」結果に基づき教員各自が行っている。2020 年度は COVID-19 のため春学期は実施せず、秋学期のみの実施となった。「この授業を履修してよかったと思いませんか」という質問に対し、2020 年度秋学期は 75% の学生が「大変よかった」または「よかった」と回答している。COVID-19 によるオンラインでの授業実施となったが、高い授業満足度の結果が得られた。</p> <p>卒業生アンケートによると、経営学部に対する満足度は 2013 年度 80.9%、2014 年度 81.7%、2015 年度 82.0%、2016 年度 84.6%、2017 年度 81.1%、2018 年度 79.7%が「満足」または「やや満足」と回答している。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「学生による授業改善アンケート」</p> <p>・「卒業生アンケート」</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

「学生による授業改善アンケート」の集計結果は、まずは各教員が検証し、授業改善に役立っている。また、例年は学生の満足度が高い授業を行っている教員に講師を依頼して研修会（FD 懇談会）を実施しているが、2020年度はCOVID-19のため実施しなかった。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度からスタートした新カリキュラムは、2020年度は2年目となり、特に「入門演習」(1年次対象)や、「入門外国語経営学」(1年次以降)の履修登録に関して各クラスの人数の偏りが生じないように定員超過のクラスは選抜を実施した。 ・COVID-19ではあったが、英語学位プログラム(GBP)のインターンシップを開講し、学生が多国籍企業での就業体験を英語で行う機会を設けた。さらに派遣先を増やすように進めている。 ・2020年度はCOVID-19のため成績不振者対象の執行部と学部事務担当者による面談は行わず、アンケート方式のヒアリングを秋学期当初(9月)に実施した。 ・アクティブ・ラーニングやフィールドワークの有無についてシラバスに明記し、経営学総論のオンデマンド授業を開講した。 ・オンライン授業のためのZoomのアカウントを経営学部で特殊し、年度最初から授業方法・問題点・注意点に関して教員間で情報交換、共有を行った。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既に実施している場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業(リアルタイム、オンデマンド、ハイフレックス)の長所、短所を整理し、対面式授業との組み合わせなどを検討して、COVID-19後の大学教育を見据えた授業方法に関して検討していく必要がある。 	

【この基準の大学評価】

経営学部において一昨年度から導入された新カリキュラムは、1年次に100番台科目、2年次に200番台科目、等とナンバリングシステムを生かした科目配置がなされており、学習の体系的性が保証されやすいシステムが提供されている点は高く評価できる。また、文系学部では学生間に知識のばらつきの出やすい数学について、高校までの数学と大学の経営・経済学関係分野で用いる数学の橋渡しの科目を設置している点も注目に値する。さらに実際のカリキュラム運営に関しても、2019年度からスタートした新カリキュラムでは、履修登録時の工夫、つまり「入門演習」「入門外国語経営学」のクラス編成時の選抜の実施が行われ、大規模学部における少人数教育の実効性を高める工夫がされている点は高く評価できる。

経営学部に関して特に注目に値するのは、授業のオンライン化に関して、情報や問題点を教員間で共有する試みや、法人に先んじてzoom有償アカウントを取得するなど、先駆的な試みが実行に移されている点である。

学部専門領域と企業社会との関連の強さを背景に、キャリアマネジメント・国際コミュニケーション論・検定会計・インターンシップなど多彩なキャリア教育科目が展開されており、COVID-19の中でも英語学位プログラム(GBP)のインターンシップを実施し、かつ派遣先の開拓に努めるなど積極的な試みが行われており評価に値する。「オンライン授業(リアルタイム、オンデマンド、ハイフレックス)の長所、短所を整理し、対面式授業との組み合わせなどを検討して、COVID-19後の大学教育を見据えた授業方法に関して検討していく必要がある。」と書かれているが、その整理を生かしたカリキ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

ユラム運営が経営学部でなされることを、ぜひ期待したい。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> FD活動の内容に応じて分権的な体制で行っている。 研究面では、2000年度にも学部の紀要『経営志林』を年4回発行しており（各教員の研究業績一覧も掲載）、年に4回、「経営学会」主催で教員の研究発表会をオンラインで開催した。 教育面では、授業改善アンケートの結果を学 <p>部長が閲覧し、その結果も踏まえ、2011年度以来、毎年「FD懇談会」を開催し、好事例や問題点の共有、改善提案等を行っている。また質保証委員会も独自の立場で授業改善提案を提示することがある。例年実施している授業相互参観については、2020年度は、COVID-19のため、相互の授業を直接参観する形での実施はできなかったが、かわりに教学問題委員会において各講義のオンライン化状況を相互報告し、また、メッセージプラットフォーム Slack を利用し、他学部および他大学からの授業実施の実例を教員間に共有した。なお、2020年度は、COVID-19のため「FD懇談会」は実施しなかった。</p> <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <p>経営学会主催の研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年10月23日（金）田路則子教授「日米瑞における起業エコシステム」 2020年11月20日（金）竹内淑恵教授「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動とネガティブ効果」 2020年11月27日（金）稲垣京輔教授「日本酒のフランス市場浸透にみる諸価値の生成と利害集団の多党化」 2020年12月18日（金）戎谷梓准教授「大学教育におけるバーチャルチーム・マネジメント」 2020年12月18日（金）横内正雄教授「ボアソナードの金銀複本位制論」 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>上記2.1①で示した通り、毎年、年に数回、教員の研究発表会を開催しており、紀要『経営志林』を年4回発行し、各教員の1年間の研究業績を掲載している。また、経営学部教授会では、毎回、教員の海外出張の渡航先・目的・期間を報告している。</p> <p>経営学部では、法政大学経営学会やイノベーション・マネジメント研究センターをはじめとする様々な組織と協力しながら、2020年度に研究や企業の最先端で活躍する講師を招いて、数回の講演会やシンポジウムをオンラインで開催した。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーション・マネジメント研究センターホームページ「講演会・シンポジウム 2020年度」 http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html 	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>2020年度に実施された3回のイノベーション・マネジメント研究センターのシンポジウムは、すべてオンラインでのライブ配信を行った。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーション・マネジメント研究センターホームページ「講演会・シンポジウム 2020年度」 http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
COVID-19 にもかかわらず、イノベーション・マネジメント研究センターのシンポジウム開催を2020年度はオンラインで3回実施した。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
研究会、シンポジウムの開催方法(対面式、オンライン(ライブ配信、オンデマンド)、ハイフレックス)それぞれの長所、短所を明確にし、COVID-19後の開催に向けて、最善の開催方法を模索する必要がある。	

【この基準の大学評価】

経営学部のFD活動は研究面と教育面に分かれて組織化されているが、研究面・教育面ともに適切に実施されていると評価できる。研究面では、『経営志林』の年4回の発行や、「経営学会」主催の研究発表会が精力的に行われている。さらに、法政大学経営学会やイノベーション・マネジメント研究センター等の連携による講演会・シンポジウムの開催も行われており、COVID-19の下でもオンラインでシンポジウムが開催された点は評価に値する。教育面では、授業改善アンケートの結果を踏まえた「FD懇談会」が毎年開催されてきた。例年は開催され、教学問題委員会において各講義のオンライン化状況を相互報告し、COVID-19のために「FD懇談会」を開催できなかった2020年度も、メッセージプラットフォームSlackを利用して他学部および他大学からの授業実施の実例を教員間に共有するなど、積極的な試みがなされてきたことは高く評価できる。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

学部独自の取り組みは行われていないが、大学レベルの対策に沿って、新型コロナウイルス感染症禍に伴う家計急変奨学金の支給を実施している。また、大学の方

針に従って、オンライン授業受講環境整備のための学部生支援として、ノートPC・ルータの貸し出し・通信容量増設の補助を実施している。

【根拠資料】

・法政大学ホームページ「奨学金・貸費金制度に関するお知らせ」

<https://www.hosei.ac.jp/campuslife/shogaku/info/1/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>

・法政大学ホームページ「オンライン授業受講環境整備のための学部生・大学院生支援について(ノートPC・ルータの貸し出し・通信容量増設補助)」

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/torikumi/covid19/jyukokankyo/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>

【この基準の大学評価】

経営学部ではCOVID-19に対する学部独自の取り組みは行われていないものの、大学レベルの対策に沿った家計支援が実施され、また、家計支援以外にも、全学的なオンライン授業の受講環境整備のための機器貸し出しや通信容量増設補助

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

が実施されており、取り組みは適切になされていると評価できる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、1年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みを実現させる。	
	年度目標	入門外国語経営学の履修の偏りを改善する。	
	達成指標	入門外国語経営学のクラス指定をはずし、学生が希望の授業を履修できるようにする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	入門外国語経営学のクラス指定を行わずに、開講コマ数を2019年度の21コマ（春学期13コマ、秋学期8コマ）から2020年度は28コマ（春学期15コマ、秋学期13コマ）に増やし、学生が希望の授業を履修できるようにした結果、履修者数は2019年度の429名から2020年度の500名に増加した。ただし、2020年度はオンライン授業のため、一部のクラスで教室定員を超える履修があった。
		改善策	オンライン授業のメリットも活かし、履修の自由度をさらに高める方策を検討することで、中期目標の達成に引き続き努める。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> 「入門外国語経営学の履修の偏りを改善する」という年度目標は、クラス指定を外し、開講コマ数を前年度の21コマから28コマに増やしたことから、履修者数を前年の429名から500名に増やしており、おおむね達成できているものと見られる。 入門外国語経営学はカリキュラム改革の中で必修化も検討された科目でもあり、履修者が増加していることは評価すべきことである。 7コマ授業を増やした結果、履修者が計71名増となったことは評価できる。「一部のクラスで教室定員を超える履修があった」という点が気になる。クラスごとのテーマと履修者数などの詳細を確認の上、平均10名/1コマという成果が妥当であるのかを検証すると良いと思われる。 	
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より入門外国語の履修の偏りが課題として挙げられ、履修の自由度を高めるための執行部の取り組みがなされているが、新カリキュラムがスタートして2年度目の今年度において、全体的に中期目標をおおむね達成しつつあるように思われる。来年度は中期目標の最終年度でもあることから、入門外国語経営学も含めて新カリキュラムの履修状況を全体的に検証することも必要ではないかと思われる。 外国語（英語）の必要性が高まる中、経営学部のカリキュラムの中では少ない少数人数教育の一つである入門外国語経営学の履修者がより増えるための工夫を考える必要がある。 2020年度は入門外国語経営学について目標を設定しているが、中期目標の最終年度である2021年度には、「1年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みの実現」に対する検証が必要だと思われる。 	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす	
	年度目標	入門外国語経営学をはじめとする新カリキュラムのグローバル・ビジネス/GBP科目において、履修を促進させる。	
	達成指標	1年生が履修しやすい時間帯にできるだけ開講する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	入門外国語経営学の履修者数は、上記の通り全体で増加した。しかし、科目重複がなく1年生が履修しやすいと思われる5時限の授業を2019年度の2クラスから2020年度は6クラスに増やしたものの、そのうち2クラスが履修者なしで開講されなかった。
改善策		1年生がより履修しやすいように、入門外国語経営学をすべての曜日で開講する予定である。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価		
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の目標はおおむね達成しているものと評価できる。ただ、外国語経営学の履修を促進させるために、1年生が履修しやすい時間帯にできるだけ開講する努力がなされている点は評価できるが、「履修者なし」のクラスが見られ、少し課題が残る形になった。 ・受講者なしのクラスが2クラスあったのは開講科目が少ない5限に開講するという戦略に問題があったと考えられる。その意味で学生の履修行動を読み切れなかったことは残念である。 ・履修者なしのクラスの開講曜日・時限やテーマなどを確認するとともに、受講数という量的な視点のみならず、学生の評価(FD アンケート調査結果)という質的な視点からも評価すると良い。 		
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語経営学をはじめとする新カリキュラムのグローバル・ビジネス/GBP科目において、履修を促進させるために執行部のさまざまな取り組みがなされているが、「英語で専門科目を学ぶ機会を増やす」という中期目標の達成に向けて、残された課題の原因の分析も含めて、新カリキュラムの英語関連専門科目の履修状況を検証することも必要ではないかと思われる。 ・入門外国語経営学は、通常の大教室授業とは異なり、少人数双方向型の授業なので、学生は時間割が空いているからという理由で履修することはしないと思われる、入門外国語経営学の魅力をアピールする方策を考える必要がある。 ・所見の記載と重複するが、入学したばかりの1年生にとって、5時限はよほど興味のあるテーマの授業でないと思われ履修しないと思われる。曜日のみならず、時限、テーマについても検討する必要がある。 		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
3	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、シラバスの標準化を目指す。		
	年度目標	新カリキュラムのシラバスの標準化を進める。		
	達成指標	新カリキュラムに対応したカリキュラムツリー・カリキュラムマップの改訂を継続する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	2019年度に引き続き、新カリキュラムに対応したカリキュラムツリー・カリキュラムマップの改訂を行った。また、コロナ禍による対面授業からオンライン授業への移行に伴い、シラバスの修正を学期中にも行った。	
		改善策	アフターコロナでの教育のあり方を再考するとともに、カリキュラムのあり方についても継続的に検討する。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の目標は十分に達成されているものと評価できる。また、来年度は中期目標の最終年度であるが、3年間の執行部の努力により達成されつつあるように思われる。 ・カリキュラムマップの改訂が進んだことは評価できる。 ・カリキュラムツリー・カリキュラムマップの改訂については、今後も状況に合わせて継続的に検討すると良い。 		
	改善のための提言	・with コロナ、after コロナを想定したカリキュラムのあり方に関する議論・検討を継続する必要がある。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
4	中期目標	アクティブ・ラーニングを一層進めていく。		
	年度目標	反転授業やオンデマンド授業の実施を拡大する。		
	達成指標	通信教育課程の教材やオンラインツールを利用して、反転授業やオンデマンド授業を実施する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
理由	コロナ禍で通常の対面授業の実施が困難な中、Zoomを利用したリアルタイム授業や、通教用コンテンツの活用およびYouTubeなどの利用によるオンデマンド授業を実施できた。ま			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		た、教学問題委員会では、対面授業と比較したときの学習成果について懸念が示され、より効果的なオンデマンド授業の実施方法が議論された。
	改善策	学部でのオンデマンド(ビデオ)教材作成のための機材の購入や教員間によるサポート体制を整えている。また、コロナ禍においても効果的な授業形態について、教学問題委員会などで引き続き議論する予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、オンライン授業やオンデマンド授業の導入が大きく進展し、年度目標は達成されていると評価できるが、その反面で従来型の対面授業の実施に大きな制約を伴う状況になっており、効果的な授業形態の観点から、全体的に検証することが必要ではないかと思われる。 ・今年度は通信養育のビデオ教材を利用したオンデマンド授業など講義の多様化が進んだことは評価できる。 ・全員未経験の授業形態での実施に対して、情報共有を行いながら、いろいろなスタイルの授業を展開できたという点で大いに評価できる。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標はコロナ前の教室での対面授業を前提としたものであると思われる。コロナ下またはコロナ後の効果的な授業形態の確立に向けて、中期目標をどう捉え直していくのかを議論してほしい。 ・オンデマンド授業などが学生にどのように評価されているのか調査し、学生のニーズに合った講義方法になっているか検証する必要がある。 ・with コロナ、after コロナを想定した反転授業やオンデマンド授業のあり方について議論・検討を継続する必要がある。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	分野の特性に応じた学習成果の測定方法について検討を行う。
	年度目標	入門外国語経営学や新カリキュラムの授業についても、学習成果や評価方法に関して引き続き検討を行う。
	達成指標	学習成果の把握や評価方法について、他学部および他大学での事例調査も含めて、教学問題委員会および教授会で引き続き検討を行う。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教学問題委員会でオンライン授業における学習成果の把握や評価方法について検討した。また、メッセージプラットフォーム Slack を利用し、他学部および他大学からの兼任講師も含めて多くの事例を共有できた。その過程で、オンライン学習が難しい科目(例えばコンピュータ演習)が表面化するなど、問題点も指摘された。
	改善策	教学問題委員会や各種プラットフォームを利用して情報共有を行い、より効果的な学習成果の把握や評価方法について引き続き検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
5	年度末報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の把握や評価方法について、他学部および他大学での事例調査を含めて、教学問題委員会および教授会で引き続き検討を行い、またコロナ禍の中で、オンライン授業の効果的な実施と学習成果の把握に関して議論しており、今年度の目標をおおむね達成しているものと評価できる。 ・オンライン授業における学習成果の測定に関して検討を行ったことは、今後オンラインでの講義が増えると見込まれるので、意義のあることであったと思われる。 ・教学問題委員会での検討はもとより、Slack を利用することにより、経営学部のみならず、他学部および他大学からの兼任講師も含めて多くの事例を共有できた。また、タイムリーなレスポンスがあるため、大変有意義であった。
	改善のための提言	・学習成果の把握や評価方法について、これまでの3年間、教学問題委員会および教授会での検討、(2018年度)、新カリキュラムの専門入門科目および入門外国語経営学を中心とした教学問題委員会および教授会での検討(2019年度)、他学部および他大学での事例調査も含めた教学問題委員会および教授会での検討(2020年度)を行ってきた。学習成果の把握や

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		評価方法は非常に難しい課題であることは承知しているが、来年度は中期目標の最終年度でもあり、これまでの議論を踏まえて、一定の方針を出してほしい。 ・新カリキュラムに移行してから2年がたつが、次年度以降その教育効果についてアンケート調査など何らかの形で検証を行う必要がある。 ・情報共有は重要だと従来から認識はしていたが、2020年度は一層それを実感する年度であった。今後も学習成果の把握や評価方法について、多くの教員を巻き込みながら多面的に検討すると良い。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
6	中期目標	グローバルな人材の積極的な受け入れを図る。	
	年度目標	引き続き、定員拡大に向けて、入試の在り方に関して具体的に検討する。	
	達成指標	2021年度の自己推薦入試の審査日程を変更し、増加する応募者の書類を丁寧に審査できるスケジュールを確保する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	コロナ禍で出校が困難な中、指定の日時に事務室で閲覧していた書類を個人情報に配慮した上で郵送し、各審査員が自宅で書類審査を行えるようになった。また、審査日程の見直しについては、GBP定員増に際し同課程の自己推薦入試において追加合格を廃止し、新たに二次募集を実施することを決定した。この結果、過密な審査日程の解消がなされ、丁寧な審査と入試機会増加による学生の質向上が期待される。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	・GBPの自己推薦入試の審査日程を変更し、増加する応募者の書類を丁寧に審査できるスケジュールを確保することで、自己推薦入試に関する前年度の課題を解消して入試体制を改善しており、今年度の目標を十分に達成しているものと評価できる。 ・今年度はコロナ禍で特別入試など面接を要する入試に関しては制約がある中で、感染を避ける対策が取られたことは評価できる。ただ、郵送などの方法に関して個人情報に関する取扱いには慎重にする必要があり、今年度の方法は例外と考えるべきだと思われる。		
改善のための提言	・これまでの3年間、中期目標の達成に向けて、GBPを中心にさまざまな取り組みが行われてきた点は高く評価できるが、GBPは定員も限られていることを考えると、GBP以外の一般の課程における取り組みも検討して行く必要があるのではないかとと思われる。 ・今年度の方法はコロナ禍という特殊な状況に対応したものとみるべきで、一般的な方法にしないことが望まれる。 ・書類審査、面接等においてデジタル化が進んだことによるメリットは大きいと思われる。留学生の受け入れについては今後の課題として継続的に検討すると良い。		
No	評価基準	教員・教員組織	
7	中期目標	カリキュラムにふさわしい教員組織を備えるべく、教育研究の適性やバックグラウンドのバランスに配慮した多様な教員組織を目指す。	
	年度目標	2019年度にとりまとめた採用のプロセスに関する内規に沿って、機動的な人事を進める。	
	達成指標	出願書類の部分的なデジタル化を行い、時間がかかる審査の効率化を図る。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	出願書類は書籍などを除いて電子ファイルとしてUSBでの提出を原則とし、デジタル化を進めた。また、出願者情報は個人情報に配慮した上でオンラインで共有し、Zoom等を利用した採用面接を実施することにより、コロナ禍で出校が困難な中でも効率的な情報共有による機動的な人事を進め、3科目の人事セミナーを実施し専任教員2名を採用した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	・出願書類の部分的なデジタル化を行い、時間がかかる審査の効率化を図って、コロナ禍においても内規に沿って適正かつ機動的な人事が行われており、年度目標を十分に達成して		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>いるものと評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教員採用に関しては、コロナ禍のため書類のデジタル化やオンラインでの面接にせざるを得なかった面があるが、このことが逆に従来より多くの教員が新規採用に関わることができるきっかけとなるメリットがあった。特に面接に関しては録画でも面接の様子を確認し、意見を述べることができたのは怪我の功名ではないが、よかったと思われる。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用に際し、科目の適性に応じて学術研究または実務経験を考慮し、日本語だけでなく、英語でも質の高い教育を提供できる教員の採用を目指してきた。また、最近では多様な雇用形態などを複合的に考慮した機動的な採用を行っている。このような教員採用における経営学部の取り組みは高く評価できるものである。ただ、大学院教育との強い連関性や近年のカリキュラムの科目細分化などにより、教員組織運用上の問題が生じていないか、点検してほしい。 ・デジタル化などの面で進展はあったが、逆に個人情報の管理などの問題が発生するので、その点を解決策を考えておく必要がある。 ・オンライン面接のお陰で、面接を録画し、面接を見逃した場合にも、あるいは、再度内容を確認する場合にも有効活用でき、採用面接に対する教員の関与度は例年以上に高かったように思われる。こうした手法のメリットを、リアル面接に戻った際にも生かすと良いだろう。出願書類については紙ベースではなく、今後もデジタル方式での対応を継続すると良い。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教員間の相互学習をさらに強化する。
	年度目標	オンライン授業について紹介の機会を設けて、ファカルティ・ディベロップメントを進める。
	達成指標	講義開始前の教員間 Zoom ミーティングなどにより、好事例を共有する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	例年実施していた対面での授業相互参観はコロナ禍で実施できなかったが、その代替手段としてオンライン授業実施前に教員間 Zoom ミーティングを実施し、オンライン授業の実施方法や注意点などを共有した。また、定期的に教学問題委員会において問題点や改善方法を話し合い、より効果的な授業実施方法を議論した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
年度末報告	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業実施前に教員間 Zoom ミーティングを実施し、オンライン授業の実施方法や注意点などを共有し、また、定期的に教学問題委員会において問題点や改善方法を話し合っており、今年度の達成目標をクリアし、年度目標をおおむね達成しているものと評価できる。 ・オンライン授業に不慣れな教員が多い中、授業の開始に先立ち教員全員に対して講義の方法などをコーチする機会を持ったのは良かった。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員間の相互学習をさらに強化する」という中期目標の観点からは、教授会メンバー以外の授業担当教員との間での情報共有も重要であり、この点にも十分留意してほしい。 ・オンライン授業で高評価を得ている教員からそのノウハウを聞く機会を設定することを提案する。 ・コロナ禍という切迫した状況の中で、改めて教員間の情報共有の重要性を実感できた 2020 年度であった。これを契機により良い授業ノウハウの共有を図ると良い。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	成績不振な学生や日本語のできない留学生へのきめ細かな支援・指導を行う。
	年度目標	学生指導における学生センターと学部の連携を円滑に行うためのサポートシステムを整える。
	達成指標	どのような事例が多いのか、学生センターと教授会で情報を共有する。
	教授会執行部による点検・評価	
	年度末報告	自己評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	理由	対面による面談が実施できなかったため、成績不振者への対応は、例年に比べ厳格さに欠けていたことは否めない。一方、9月教授会冒頭において障がい学生支援室より「障がい学生支援コーディネーターの紹介」があり、障がい者支援室との連携が強化され、障がいをもつ学生へのサポート（アンケートの実施など）について従来よりもきめ細かな個別対応ができた。また、副学生センター長と副主任が密に連携することにより、学生センターと教授会で情報を共有する体制を整えることができた。
	改善策	オンライン形式を活用し、成績不振者面談の機会を増やす。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での面談による成績不振者への対応は、コロナの影響により例年どおりに実施できなかったが、障がい者支援室との連携や学生センターとの情報交換の体制の整備の点で重要な進展が見られ、今年度の目標をおおむね達成しているものと評価できる。 ・障がい学習支援室との連携がかなりうまく進んだ点は良かった。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は中期目標の最終年度であるので、障がい者支援室との連携や学生センターとの情報交換をより一層促進し、中期目標の達成に向けて、きめ細かな支援・指導に取り組んでほしい。また、成績不振者の支援については、執行部が挙げる改善策を着実に実施してもらいたい。 ・コロナ禍の中で学生は学生同士の繋がりを欠くこともあり、孤独から精神的に追い込まれる学生も出てきている。今後は学生相談室との連携をより密にする必要がある。その際に学生相談室委員を連携に活用することが望ましいと考える。 ・オンラインを活用することにより、遠隔地にいらっしゃる保護者との面談もより一層やりやすい環境になった。我々教員にとっても今年度はオンライン活用の1年目であり、右往左往した感が否めないが、そうした環境にも慣れてきたので、成績不振の学生との面談機会の増加はもとより、保護者とお話する機会を設けるもの良い。また、障がい者支援室で実施したアンケート評価をフィードバックしてもらい、次年度への対応を検討すると良いだろう。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	不正行為に対して厳しく対処する。
	年度目標	カンニングや剽窃などの不正行為に関して、資料を用いて学生に説明し、不正行為に対する注意喚起を組織的に行う。
	達成指標	定期試験における座席指定の実施や剽窃ソフトの利用などにより、不正行為の防止・発見機能を強化する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	10月の教授会の冒頭で剽窃チェックソフト Turnitin の利用方法などについてFD研修を実施した。また、教学問題委員会ではオンラインテストでもカンニング等の不正行為の防止方法を議論した。しかし、在宅でのレポート作成が増加した影響で、不正が疑われる事例が増加したが、不正認定など事後的な対応に終始せざるを得ず、事前の注意喚起や抑止には充分に取り組めなかった。残念ながら不正行為と疑われるケースが一部授業で多発し、教授会でも協議したが、対応について課題（教室での試験のようにその場で不正行為を発見することができないため発覚に時間がかかることや、不正行為者が認めない限り明らかな証拠がない限りは追及が難しいことなど）も見つかった。
	改善策	2021年度もオンラインテストを実施する機会が多くなると予想されるため、不正行為の防止・発見機能について教学問題委員会や教授会で引き続き検討する。また、今後もオンライン授業が増加・存置されることを見据え、対面授業を前提としていた従来の不正行為処分基準を必要に応じて改訂・厳格化し、不正の事前抑止にも努める。
質保証委員会による点検・評価		
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標はおおむね達成されているものと評価できるが、カンニングや剽窃などの不正行為はなかなかなくなるのが実情である。不正行為には厳しく対処する一方、予防的観点からの啓蒙活動を辛抱強く継続することが重要であると思われる。 ・試験やレポートがオンラインになったため剽窃行為が多くなるのは予想されたことであ 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>る。そのために剽窃チェックソフトの導入などの工夫を行ったのは評価できる。しかし、ソフトに使い勝手の悪さがあるのは残念なことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剽窃チェックソフト Turnitin は、実際に使用した経験上、使いにくいソフトだと思われる。別のソフトの検討を含め、引き続き検討するという執行部方針に賛成である。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の対面授業を前提とした不正行為だけでなく、オンライン授業を前提とした不正行為への対策にも取り組む必要が生じており、執行部が挙げている改善策を着実に実施してもらいたい。 ・教員の側で剽窃を完全に防ぎきることは出来ないことだと割り切り、成績評価の方法を多様化し、試験やレポートのみならず毎回の小テストの実施などの様々な工夫をすることを検討する必要がある。 ・カンニングや剽窃などの不正行為に対する注意喚起、啓蒙も組織的に、継続して行う必要がある。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する。
	年度目標	非常事態宣言下でも学生をサポートできる環境を整備する。
	達成指標	Zoom 等を利用して学生が相談できる機会を設ける。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	S
	理由	春学期と秋学期に Zoom ミーティングを利用し「新入生ひろば」として2年次以上の経営学部生による新入生サポート活動を行った。春学期のはじめには利用者は少なかったが、周知を徹底した秋学期には10日間で31名の新入生が来訪し、学生スタッフ達から様々なサポートを受けることができた。また、上級生向けの入ゼミ説明会をオンライン化し、ゼミへの参入障壁を引き下げることで、コロナ禍でも社会とかわる機会を提供できた。しかし、コロナ禍で「企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する」という本来の中期目標の達成については、課題を残した。
	改善策	寄附講座「上場企業におけるディスクロージャー制度」と入門外国語経営学で、新たに2名の実務家を兼任講師として採用し、中期目標の達成を図る。また、オンライン形式のメリットを活かし、ゼミ単位での企業連携など先進事例を中心に、学部としてサポート体制を強化する。
		質保証委員会による点検・評価
11	年度末報告	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による非常事態宣言下でも、Zoom 等を利用して学生が相談できる機会を設けるなど、今年度の目標をおおむね達成しているものと評価できる。 ・コロナ禍のなかでオンラインという限られた方法ではあるが新入生サポートができたことは、評価されてよい。ただ、オンラインに関しては新入生の中にも抵抗感がある学生もいると考えられる。そうした学生に対するサポートを考える必要がある。 ・「新入生ひろば」については、誰もが未経験、かつ、バーチャルという制約のある中で、2年次以上の経営学部生を活用して、新入生へのサポートを実施したことは評価に値する。企業等と連携する講座については、コロナ禍での実施はなかなか調整困難であり、今後対応すべき課題として残った。しかしながら、左記の改善策に記載されている通り、ゼミ単位であれば、今年度も企業との連携、研究発表大会をオンラインで実施した実績がある。各教員が把握している情報を共有し、次年度につなげると良い。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの3年間、GBPのインターンシップの開講(2018年度)、経営学部創立60周年記念事業における実践知をテーマとした講演会や座談会の開催(2019年度)、非常事態宣言下の学生のサポート環境の整備(2020年度)に取り組んできたが、「企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する」という中期目標について、必ずしも顕著な進展が見られているわけではないように思われる。来年度、中期目標の最終的な達成に向けて、執行部のより一層の取り組みに期待したい。 ・コロナ禍では新入生に限らず抑うつ的な学生もいる。そうした学生に関してのサポート体制を考える必要がある。 ・コロナ禍の先行きは不透明であり、一方、新入生のサポートは次年度も必要だと思われ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			る。ピアサポートは良い方法だと思うので、何らかの形で継続することが重要だと思われる。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
12	中期目標	海外の大学との連携を深め、多様な教育プログラムを提供する。		
	年度目標	既存の連携大学との関係を維持する。		
	達成指標	大連工業大学との学士連携プログラムを継続する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	大連工業大学との学士連携プログラムを継続した。また、台湾の中信金融管理学院 (CTBC Business School) との協定に基づく交換留学生受け入れを開始した。	
		改善策	アフターコロナでの教育のあり方を再考するとともに、対面や出入国を前提としない形での海外大学との連携強化を検討するなど、臨機応変に中期目標を変更していく必要がある。	
質保証委員会による点検・評価				
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は感染症のパンデミックという非常事態下であったが、既存の連携大学との関係を維持するという年度目標はおおむね達成しているものと評価できる。 ・台湾の中信金融管理学院との交換留学生の受け入れができたことは評価できる。今後も海外との連携の動きを途絶えることなく進めることが望まれる。 ・執行部による評価で特段問題ない。 			
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は中期目標の最終年度となるが、「海外の大学との連携を深め、多様な教育プログラムを提供する」という目標は、学部の研究・教育面で極めて重要なものであり、今後のアフターコロナ時代における海外大学との連携の在り方を模索し、多様なプログラムの提供を一層促進してもらいたい。 ・コロナ禍において、他大学との連携をどうすべきかを教授会や教学問題委員会等で検討する必要がある。 			

【重点目標】

新型コロナウイルスの影響による非常事態宣言下でも、Zoom 等によるオンライン化促進によって、アクティブラーニングや教員間の相互学習を促進し、学生へのサポート環境を整える。また、入門外国語経営学をはじめとする新カリキュラムのグローバル・ビジネス/GBP 科目において、履修を促進させる。

【目標を達成するための施策等】

Zoom 等による相互リアルタイム通信授業を行い、講義開始前には教員間 Zoom ミーティングにより好事例を共有し、Zoom オープンゼミを学生サポートに活用する。また、学生が希望の授業を履修できるように、入門外国語経営学のクラス指定をはずし、1 年生が履修しやすい時間帯にできるだけ開講する。

【年度目標達成状況総括】

2020 年度の重点目標に掲げたコロナ禍での教育及び学生へのサポート環境については、各教員が試行錯誤した結果を教学問題委員会などで情報共有することにより、課題の発見と改善を含めた体制を整えることができた。特に、通教用ビデオの学部授業での活用や YouTube などの利用によるアクティブラーニングの促進と、Zoom や Slack などを用いた教員間の情報共有および相互学習の強化については、十分に達成できた。一方で、学習成果の測定や、評価方法のあり方については、新たな検討課題も生じた。また、中期目標の 1 つである「企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する」点や 2019 年度の達成目標であった「GBP 科目のインターンシップを充実する」点については、コロナ禍で事実上不可能であったため、2021 年度に課題を残すこととなった。こうした状況から、コロナ禍では達成が困難な場合があることから、中期目標そのものを再設定する必要性を感じた。

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

経営学部では、コロナ禍前の 2019 年度に策定された 2020 年度目標およびその達成指標において、オンデマンド授業の拡大が目指されていた。対面授業が困難化する急な状況に対しても、各教員の試行錯誤の結果の組織的な共有と改善のための体制が構築され、通信教育課程の教材やノウハウを学部教育に生かすだけでなく、アクティブラーニングの促進や Zoom や Slack などを用いた教員間の情報共有体制の強化が行われた点は、執行部の総評にもあるとおり、高く評価できる。2021 年度の自己推薦入試の審査日程を変更し、コロナ禍の中でも受験機会の拡大と丁寧な審査が実施されたことも評価に値する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

2019 年度から導入された新カリキュラムを円滑に運営するために設定された目標の達成も順調に行われている。すなわち、1 年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みを実現するために 2020 年度は入門外国語経営学の履修の偏りの改善が目指され、クラス指定の廃止とクラス数の増加が実施された。その結果として履修者数が増加し一定の効果を上げている点は評価できる。ただし、オンライン授業の実施に伴い、教室定員を超える登録があった点は、今後この授業を対面化する際の障害ともなり得るので改善を期待したい。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、1 年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みを実現させる。
	年度目標	入門外国語経営学の履修人数を標準化し、きめの細かい指導を可能とする。
	達成指標	入門外国語経営学において定員超過のクラスは選抜を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす
	年度目標	単位認定可能な SA プログラム、グローバルオープン科目、ERP（英語強化プログラム）の履修を促進させる。
	達成指標	4 月の学部主催のオリエンテーションでこれらの英語での授業の説明を行ったり、各プログラムのオリエンテーションに関する情報を学生に提供する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、シラバスの標準化を目指す。
	年度目標	新カリキュラムのシラバスの標準化を進める。
	達成指標	新カリキュラムに対応したカリキュラムツリー・カリキュラムマップの改訂を継続する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	アクティブ・ラーニングを一層進めていく。
	年度目標	反転授業、オンデマンド授業、オンライン授業、ハイフレックス授業におけるアクティブ・ラーニングの実施を拡大する。
	達成指標	2020 年度のオンライン授業を振り返り、より効果的なアクティブ・ラーニングのための教授法に関して情報共有を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	分野の特性に応じた学習成果の測定方法について検討を行う。
	年度目標	入門外国語経営学や新カリキュラムの授業に関しても、学習成果や評価方法に関して引き続き検討を行う。
	達成指標	学習成果の把握や評価方法に関して、他学部および他大学での事例調査も含めて、教員間の情報交換を行う。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	グローバルな人材の積極的な受け入れを図る。
	年度目標	2021 年度からグローバルビジネスプログラム (GBP) の入学定員を 10 名増員する。それに伴い入試を 2 期制とし、2 期の入試では外国籍の学生のための募集とする。
	達成指標	2021 年度初めて実施するグローバルビジネスプログラム 2 期目の入試を書類と面接試験で実施して、2 期制入試に関して検討を行う。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	カリキュラムにふさわしい教員組織を備えるべく、教育研究の適性やバックグラウンドのバランスに配慮した多様な教員組織を目指す。
	年度目標	引き続き 2019 年度にとりまとめた採用のプロセスに関する内規に沿って、機動的な人事を進める。
	達成指標	出願書類のデジタル化を推進し、時間がかかる審査の効率化を図る。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教員間の相互学習をさらに強化する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	2020年度に引き続き、オンライン授業（リアルタイム、ハイフレックス）やオンデマンド授業について紹介の機会を設けて、ファカルティ・ディベロップメントを進める
	達成指標	授業相互参観を充実に行い、その情報を教員間に共有する。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	成績不振な学生や日本語のできない留学生へのきめ細かな支援・指導を行う。
	年度目標	学生指導における学生センターと学部の連携を円滑に行うためのサポートシステムを整える。また日本語が十分でない学生に対してはバイリンガルの教職員に相談できるようなシステムの構築を検討する。
	達成指標	どのような事例が多いのか、学生センターと教授会で情報を共有する。また4月の学部オリエンテーションにおける学生センター長による大学での学びに関する説明を依頼し、実施する。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	不正行為に対して厳しく対処する。
	年度目標	カンニングや剽窃などの不正行為に関して、資料を用いて学生に説明し、不正行為に対する注意喚起を組織的に行う。
	達成指標	定期試験における座席指定の実施や剽窃ソフトの利用などにより、不正行為の防止・発見機能を強化する。また4月の学部オリエンテーションにおける学生センター長のよる不正行為防止のための注意喚起の説明を依頼し、実施する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
11	中期目標	企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する。
	年度目標	非常事態宣言下でも学生をサポートできる環境を整備する。
	達成指標	Zoom等を利用して学生が相談できる機会を設ける。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
12	中期目標	海外の大学との連携を深め、多様な教育プログラムを提供する。
	年度目標	COVID19前に連携していた大学とコロナ後に再開できるようにする。
	達成指標	COVID19前に連携していた大学とコロナ後に再開できるように準備作業を行う。
<p>【重点目標】</p> <p>2020年度に引き続き、COVID-19の影響下においても、効果的なオンライン授業（リアルタイム、ハイフレックス）、オンデマンドの授業に関して教員間の相互学習を促進し、学生へのサポート環境をさらに整える。また、入門外国語経営学をはじめとする新カリキュラムのグローバル・ビジネス/GBP科目の、履修を促進させる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>COVID-19下においてもすべての学生が授業を履修できる教育体制（ハイフレックスの授業、オンラインの授業）を確立するように努め、効果的な授業形態、教授法に関して、FDミーティング、質保証委員会やZoom等を用いて情報を共有する。</p>		

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経営学部の2021年度目標は、入門外国語経営学の履修者数平準化や、アクティブラーニングの促進など、2020年度までの達成状況を踏まえたものとなっており、達成のための指標の設定も具体的であり、きわめて適切であると評価できる。特に、2020年度のコロナ禍で積極的に推進された、オンライン（リアルタイム、ハイフレックス）授業およびオンデマンド授業の有効な運営方法に関する教員間の相互学習や学生へのサポートのさらなる推進が目指されており、経営学部の成果に期待したい。

【大学評価総評】

経営学部は、学部専門領域と企業社会との関連の強さを背景として、豊富なキャリア関連科目の配置のみならず、インターンシップの展開や、外部から講師を招いた寄付講座の開設など、「外部」とのつながりの確保に積極的な学部だったと思料するが、学部が元来保有していた資源をパンデミック禍でもできる限り有効活用しようとする試みが適切になされていると評価する。例えば、COVID-19により学生のインターンシップは中止を余儀なくされたが、英語学位プログラム（GBP）のインターンシップが実施され、オンラインでシンポジウムが開催されるなど、従来の研究・教育体制の質を維持するための努力がなされ、成果を上げている点は評価に値する。

さらに、法人に先んじて有償のZoomアカウントを取得することでオンデマンド以外の授業形態を可能とした点や、通

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

信教育課程の教材やノウハウに加えて、教員相互の情報共有の体制を構築し、ある程度定常的なシステムとして組み入れることにより、オンライン／オンデマンド授業の運営の円滑化が図られた点は特に高く評価できる。経営学部では、今後もこれを推進することが目指されているとのことなので、今後に期待したい。